

# 乳腺・内分泌外科コース

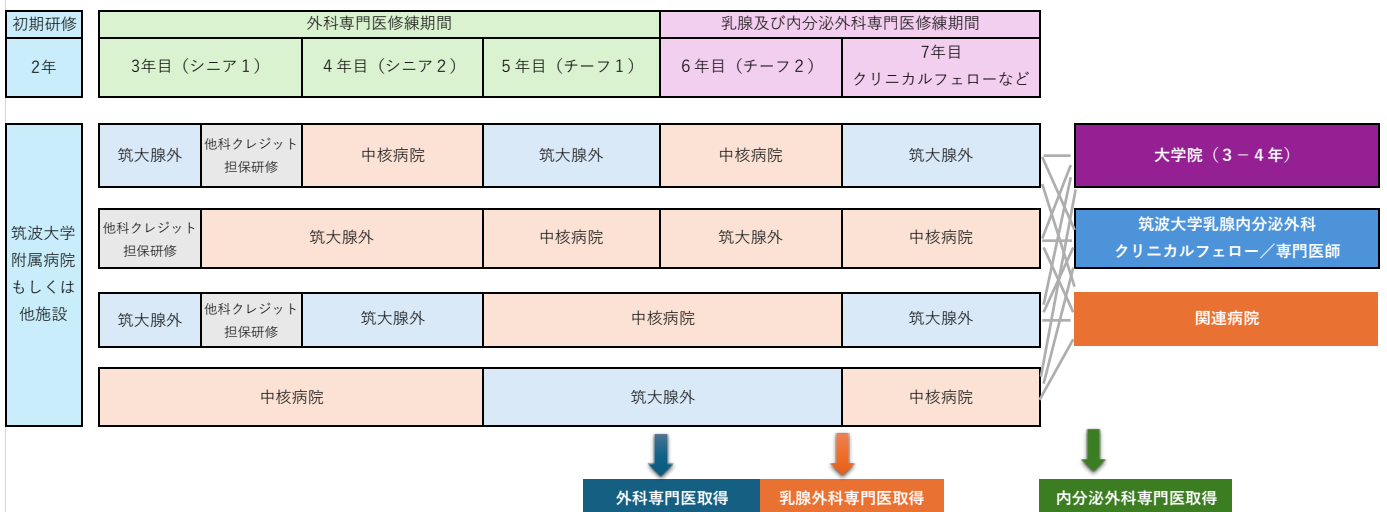
「手術だけで終わらない。薬物療法を含め治療全体を設計できる Surgical Oncologist へ」

乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患のスペシャリストであると同時に、薬物療法を含めた集学的治療を主体的に担う **Surgical Oncologist/Scientist** の育成に力を注いでいます。

外科医に求められるのは、優れた手術手技だけではありません。診療では、手術療法に加えて、薬物療法、内分泌療法、放射線治療、支持療法、緩和医療を理解し、患者さんごとに最適な治療戦略を組み立てる力が必要です。外科を基盤としながらも、治療の一部ではなく診療全体を見渡して意思決定できる Surgical Oncologist を育てることを目指しています。

Evidence Based Medicine に基づく診断と治療を実践し、日常診療の中で生じる疑問を見逃さず、研究によって解決へ導く姿勢を養います。知識・技術のみならず、論理的思考力と患者さんに寄り添う心を備えた外科医の育成を、私たちは大切にしています。

## モデルプラン



### 【解説】

外科専門医資格取得までの3年間（場合によっては4年間）のうち、1年6か月は基幹病院である筑波大学附属病院乳腺甲状腺内分泌外科で研修を行います。必要に応じて他領域外科や地域の中核病院・関連病院での研修を組み合わせ、外科専門医取得に必要な経験と実践力を養います。

大学院では、臨床研究、基礎研究、社会医学研究、トランスレーショナル研究など幅広い分野に取り組むことができます。進学時期は、外科専門医取得後や乳腺外科専門医・内分泌外科専門医取得後のほか、より早期の進学や、アカデミックレジデントとして臨床を継続しながら学ぶ形にも対応可能です。海外研修や留学も希望に応じて検討します。大学院進学を選択しない場合でも、大学内外の臨床現場で専門性と臨床力を高めていくことができます。

【中核病院】日立総合病院、水戸医療センター、県立中央病院、霞ヶ浦医療センター病院、つくばメディカルセンター病院、つくばセントラル病院、西南医療センター病院、がんセンター東病院など